

アブルッツォ・アンド・マレンマ・シェパード・ドッグ

Abruzzes and Maremma shepherd dog

FCI スタンダード No. 201

■原産国

イタリア

■用途

主に家畜の群れや領地を守るために用いられる牧羊犬

■FCI分類

グループ1 シープドッグ&キャトル・ドッグ（スイス・キャトル・ドッグを除く）

セクション1 シープドッグ

■沿革

家畜の群れを守るこの古代犬種の起源は、現在も羊の飼育が盛んなアブルッツォ地方で用いられている牧羊犬と、かつてトスカーナ州のマレンマ地方とラティウム地方に存在した牧羊犬である。特に 1860 年以降、季節ごとの家畜の移動が行われたことにより、これら 2 つの古代犬種の自然交配が促進された。

■一般外貌

大型犬で、素朴な外貌をした頑丈な体躯構成で、威厳がある。標準的な構成は、重量感があり、体長は体高よりも長く、ボディはサイズに関しても、輪郭に関してもバランスが取れている。

■重要な比率

頭部の長さは体高の 10 分の 4、マズルの長さはスカルの長さより僅かに短い。体長は体高より 18 分の 1 長い。胸深は、体高の半分より僅かに短い。

■習性／性格

その主たる役割である家畜の群れや領地全般を守るという番犬や護衛犬としての能力は、洞察力と主人並びに周囲の者への深い献身によって発揮される。

■頭部（ヘッド）

全体的に大きく、平らで、円錐形である。シロクマの頭部と類似している。

□頭蓋部（クラニアル・リージョン）

スカル

非常に幅広で、側面は僅かに膨らんでおり、側望しても凸状である。スカルとマズルのトップラインの延長線は先端に向かって僅かに離れていくため、側望すると頭部は僅かに凸状に見える。眉弓は適度である。額の中央の額溝は僅かに見られる。オクシパットは僅かに認められる程度である。

ストップ

極僅かに分かる程度で、角度は常に大きく開いている。

□顔部（フェイシャル・リージョン）

鼻（ノーズ）

マズルのライン上にあり、かなり大きい。鼻孔はよく開いており、湿り気があつて冷たく、色はブラックである。側望した時、鼻先は唇の前縁より前方に突き出てはならない。

マズル

長さはスカルより僅かに短く、深さは長さの半分で、側面は僅かに収束し、正面に向かって細くなるが、前望すると尖つてはいない。眼窩下部はやや彫り込まれ

たようである。

唇 (リップス)

前望すると、上唇の接合部において、下唇は非常に短い半径の半円を描いている。唇は下顎の歯を僅かに覆う程度のため、口角は若干認められる程度である。そのため、下唇の側面の輪郭は、前方部分では唇でのみ形作られ、後方部分は下顎と口角で形作られている。唇の縁の色はブラックである。

顎 / 歯 (ジョーズ / ティース)

顎は頑丈で、正常に発達しており、切歯は真っ直ぐに付き一列に並び、適度な大きさで、完全歯である。歯は白く、丈夫で、シザーズ・バイトである。

頬 (チークス)

適度に認められる。

■ 目 (アイズ)

犬のサイズに対し、目は大きくない。虹彩はオークル或いはチェスナッツ・ブラウンである。目は水平に付き、奥深くも、出目でもない。活き活きとし、注意深い表情である。眼瞼の開口部はアーモンド型で、目縁はブラックである。

■ 耳 (イヤーズ)

頬骨弓上方の非常に高い位置に付いており、自然に垂れているが、よく動く。三角形 (V字型) で、先端は細く尖り、決して丸くはない。犬のサイズに対して、耳は小さい。中庸な個体の場合、耳の長さは 12cm を越えてはならない。耳の付け根の幅は中位である。

■ 頸 (ネック)

上部の側面は適度にアーチしている。頸の長さは常に頭部の長さよりも短い。頸は太く、大変筋肉質で、常にデューラップはない。長く密生した被毛に覆われ、メンを形成しているが、これは牡において特に顕著である。

■ ボディ

しっかりとした構造である。

トップライン

キ甲から尻までは真っ直ぐであるが、そこからは幾分傾斜している。

キ 甲 (ウィザーズ)

トップラインより僅かに高く、肩甲骨間が離れているため幅広い。

背 (バック)

側望すると真っ直ぐで、長さは体高の約 32% に達する。

腰 (ロイン)

トップラインと完全に連なり、側面は僅かにカーブしている。筋肉はよく発達しており、幅広である。

尻 (クループ)

幅広く、頑丈で、筋肉質である。尻から尾の付け根にかけての傾斜は 20 度から 30 度以上になることもあり、そのため尻は傾斜している。

胸 (チェスト)

十分に広く、肘の高さまで達し、深く、中間あたりで十分に丸みを帯びている。下方に行くに従って徐々に狭くなるが、胸骨部では依然として十分な幅を保つ。深さは体高の半分に達してなければならない。肋はよく張っており、傾斜し、十分な肺のスペースがあり、幅も十分である。最後の仮肋骨は長く、傾斜しており、よく開いている。

アンダーライン及び腹部 (ベリー)

胸骨は長く、腹部に向かって僅かに上がっている。

■尾（テイル）

尻が傾斜しているため、尾付きは低い。通常の立姿では、飛節の下まで達する。静止時には垂れ下がり、動いている時には背線と同じ高さに保持され、先端はかなり強く鉤状になっている。被毛は密生し、豊富だが、飾り毛はない。

■四肢（リムズ）

□前 軀（フォアクォーターズ）

前望しても、側望しても、真っ直ぐである。ボディとのバランスが良く、前軀を構成する各部位は互いに調和が取れている。

肩（ショルダー）

長く、傾斜しており、力強い筋肉をしている。自由に動けなければならない。長さは体高の約4分の1である。水平面から下への傾斜は50度から60度である。

上 腕（アッパーアーム）

上部3分の2がボディに接し、筋肉は力強い。水平面から下への傾斜は55度から60度で、長さは体高の約30%に達する。上腕はボディの正中面に対しほぼ平行に位置する。肩甲骨と上腕の角度は105度から120度の間である。

肘（エルボー）

通常胸に接し、柔らかく、ゆるい皮膚に覆われている。肘はボディの正中面に対し平行に位置している。肘の先端は、肩甲骨後ろから垂直に下ろした仮の線上になければならない。上腕骨と橈骨の角度は145度から150度の間である。

前 腕（フォアアーム）

真っ直ぐで、垂直で、骨量がある。長さは上腕より僅かに長い。

手 根（手 首）（カーパス）（リスト）

前腕の垂直線の延長上に位置する。強く、すっきりしており、滑らかで、十分な厚みがある。豆状骨は明瞭に突出している。

中 手（パスターン）（メタカーパス）

長さは短過ぎても、長過ぎてももない。余分な皮下組織がなく、引き締まっている。側望すると前方に向かって僅かに傾斜している。

前 足（フォアフィート）

大きく、丸みを帯びた形で、指趾は緊握し、短く密な被毛で覆われている。爪はブラックが好ましいが、茶色がかかった色でも許容される。

□後 軀（ハインドフィート）

全体として見ると、後望しても、側望しても、後肢は真っ直ぐである。ボディとの釣り合いが良く、様々な部位は互いに調和が取れている。

大 腿（サイ）

長く、僅かに傾斜し、幅広く、筋肉は浮き出しており、後ろの縁はやや凸状である。寛骨と大腿骨（股関節）の角度は約100度である。

膝（スタイフル）（ニー）

堅固で、垂直線上にしっかりと付いている。大腿骨と脛骨の角度は過度ではない。

下 腿（ローワー・サイ）

大腿よりやや短く、水平面から下への傾斜は約60度である。骨は強く、筋肉は引き締まり、下腿の溝は明瞭である。

飛 節（ホック・ジョイント）

かなり厚く、幅広い。角度は140度から150度の間である。

中 足（リア・パスターン）（メタターサス）

頑丈で、引き締まっており、幅広である。長さは長過ぎもせず、短過ぎてもない。デュークローは許容される。

後 足 (ハインド・フィート)

大きく、前足ほど丸みは帯びておらず、指趾は緊握し、短く密な被毛で覆われている。爪はブラックが好ましいが、茶色も許容される。

■ 歩 様 (ゲイト/ムーブメント)

ウォーク及び伸びのあるトロット。

■ 皮 膚 (スキン)

ボディ全体に密着している。どちらかという厚みがある。瞬膜及びパッドは黒く色素沈着している。

■ 被 毛 (コート)

毛 (ヘア)

大変豊富である。被毛は長く、手触りは粗めで、真っ直ぐな馬のたてがみに近い。ボディに対して平らに寝ており、僅かなウェーブは許容される。頸周りに重要なメーンを形成し、後軀の後ろ側には適度な長さの飾り毛がある。しかし、マズルやスカル、耳及び四肢の前側の被毛は短い。

ボディの被毛の長さは8cmに達する。下毛は冬の間のみ豊富になる。

毛 色 (カラー)

ホワイトの単色である。アイボリー、淡いオレンジまたはレモンのシェードは一定の範囲内でのみ許容される。

■ サイズ

体 高

牡：67～73.5cm 牝：62～70cm

体 重

牡：40～52kg 牝：35～45kg

■ 欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福祉、及び伝統的な作業を行うための能力への影響に比例するものとする。

・繰り返しペーシング（側対歩）するもの。

■ 重大欠点

- ・スカルとマズルのトップラインが収束しているもの。
- ・尾が背上で巻いているもの。
- ・常にペーシング（側対歩）するもの。
- ・サイズが制限基準を越えるもの、または下回るのもの。

■ 失 格

- ・攻撃的または過度のシャイ。
- ・肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・鼻が完全に色素欠乏しているもの。
- ・明瞭なローマン・ノーズやディッシュ・フェイス。
- ・眼瞼に多少の色素欠乏がみられるもの。ウォール・アイのもの。左右とも内斜視のもの。
- ・アンダーショット。
- ・先天性か断尾されたものかを問わず、尾がない、或いは尾が短いもの。
- ・被毛がカールしているもの。

- ・イザベラまたはアイボリーの単色、もしくはイザベラまたはアイボリーの明瞭な斑を有するもの。ブラックのシェードがあるもの。

注：・牡犬は明らかに正常な2つの睾丸が陰嚢内に完全に下降していること。
・機能的かつ臨床的に健全であり、その犬種のタイプを有している犬のみが繁殖に使用されるべきである。